

平成28年度第5回佐久市総合計画審議会第2部会 議事録

日 時：平成28年9月26日（月）

13：30～15：00

場 所：佐久市役所3階 301会議室

【出席者】相馬部会長、石山副部会長、桃井委員、秋山委員、土屋せつ子委員、
佐藤千恵子委員、柳沢委員、武重委員、中島委員 以上9名

【事務局】佐藤企画課長、若林課長補佐（企画調整係長）、市村企画員、大井、佐藤

1 開会

2 部会長挨拶

3 議 事

(1) 第一次佐久市総合計画前期基本計画素案について

・事務局より、章ごとに説明（資料1）

第2章 質問・意見

	(P31 地域交通ネットワーク)
(委員)	第一次総合計画後期基本計画の主な取組の4点目に通学路の歩道設置について記載がありますが、市では自転車専用通行帯の設置について考えていないのでしょうか。
(事務局)	担当課の方で自転車ネットワーク計画を策定したいといった話は聞いたことはありますが、具体的なところまでは話が進んでいない状況です。
(委員)	話が進まない理由をお聞きしたい。自転車の歩道走行は原則禁止されており、自転車の走行に対し厳しくなっています。
(事務局)	市内でも県道で自転車専用通行帯が設置されている路線があります。自転車専用通行帯は歩道を相当広くとらないと、設置が困難です。理想とすれば通学路になるような道路について車道、歩道、自転車専用通行帯とそれぞれ設置できると良いのですが、用地の買収など課題もあり、現実的には難しい状況です。よって、まずは歩道の整備を優先して進めています。

第3章 質問・意見

	(P33～34 農業)
(委員)	字句を修正した「荒廃農地」は、「耕作放棄地」とどのような違いがあるのでしょうか。
(事務局)	「耕作放棄地」は、農業センサスに基づくもので5年に1回調査されており、今後耕作する意思がないような農地を言います。 「荒廃農地」は、市などが調査して、実際に荒廃していると判断している農地を言います。 今回、国土利用計画や第2章（土地利用）と整合を図って、「荒廃農地」に字句を修正しました。
(委員)	「遊休農地」という語は使わないのでしょうか。
(事務局)	総合計画の中では使う予定はありません。
	(P43～44 工業)
(委員)	「高度情報通信ネットワークを活用したB to B」とはどのようなものなのでしょうか。
(事務局)	「ものづくり navi 佐久」というインターネットのサイトを設けて製造業の製品PR、仕入れなどの企業間のやりとりを紹介しているものを記載しています。 インターネット上で開設していることから、「高度情報通信ネットワークを活用した」としています。
(委員)	対象は佐久市内だけでしょうか。
(事務局)	ホームページを見る限りだと、佐久市の製造業かと思います。

	(P41～42 観光)
(委員)	公衆無線LANの整備について記載がありますが、現状とこの位まで整備していく予定が分かれば教えてください。
(事務局)	現状としては、あまり整備されていないのが現状かと思います。 国の予算を活用して、これから公共施設の整備を進めていきたいと考えています。
(委員)	駅とか体育館が対象になるのでしょうか。
(事務局)	観光面や防災面での避難所になるような施設を対象に整備をしていきたいと考えています。

(2) 第一次佐久市総合計画後期基本計画進行管理について

(資料2により事務局から説明)

特段の意見等なし

(3) その他

- ・第二次佐久市総合計画前期基本計画における目標設定等について

(資料3により事務局から説明)

(委員)	後期基本計画で定めていた「チャレンジ」は、前期基本計画では定めないということでしょうか。
(事務局)	他の部会からもご意見をいただいておりますが、「チャレンジ」は「～を目指します。」という内容が多く、基本構想の施策の大綱で定めているものとあまり変わらないことから、前期基本計画では定めないものとしたと考えています。 また、前期基本計画では「プロジェクト指標」を定めていきたいと考えています。
(委員)	「アウトカム指標」には、「受益者の目線で見えた指標」という意味があるかと思いますが、何か計算式はあるのでしょうか。
(事務局)	例えば、道路の延長そのものは、予算や人の投入量によって制約されることもあり、アウトプットと言われています。これに対して

	<p>道路を延長することによる、渋滞が緩和できた、移動時間が短くなったという市民目線の成果に着目したものがアウトカムになります。</p> <p>また、事業の成果ということで、市民の満足度が重要ということで、アンケート調査による市民満足度も目標として設定したいと考えています。</p>
(委員)	<p>道路以外で何か例があるでしょうか。</p>
(事務局)	<p>例えば、「人権尊重」の施策では現在、「人権尊重教育・啓発事業などの延べ参加者数」が後期基本計画の目標として設定されています。</p> <p>予算に基づき人権尊重の教室などを何回開催したかというのがアウトプットに当たると思います。</p> <p>そこから、教室に実際に何人参加したかという成果（アウトプット）があり、さらに、評価は難しいと思いますが、参加によってどの位減らせたのかという成果（アウトプット）があるかと思います。</p> <p>いずれにしても、成果指標の設定が難しいところもあるので、まずは施策ごとにアンケート調査による市民満足度を目標として考えています。</p>
(委員)	<p>アンケートの聞き方によっても、結果が違ってしまわないのでしょうか。</p>
(事務局)	<p>これまでも2年に1回、継続的にアンケート調査を実施していることから、設問などを変更せずに、これからも実施したいと考えています。</p> <p>現在も「満足」「やや満足」といった5段階で評価いただいております、設問の違いによって回答に偏りがないようにしています。</p>
(委員)	<p>今回の目標設定に伴い、設問数を増やす予定はありますか。</p>
(事務局)	<p>今年度の調査を基準値にしたいと考えていますので、基本的にこれまでと同様の設問で比較していきたいと考えています。</p>
(委員)	<p>アンケートはどのような者を対象に行っているのでしょうか。</p>

(事務局)	1,000人を無作為抽出して、実施しています。
(委員)	アンケートの回収率はどうでしょうか。
(事務局)	50%は超えたいと考えています。 統計上、1,000人で5割の回答があれば信頼度があると思います。

・次回会議の日程について連絡

4 閉 会